【表紙】

【提出書類】	臨時報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年 1月14日
【会社名】	株式会社アクセル
【英訳名】	AXELL CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松浦 一教
【本店の所在の場所】	東京都千代田区外神田四丁目14番1号
【電話番号】	(03) 5298 - 1670
【事務連絡者氏名】	取締役管理グループゼネラルマネージャー 千代 進弘
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田四丁目14番1号
【電話番号】	(03) 5298 - 1670
【事務連絡者氏名】	取締役管理グループゼネラルマネージャー 千代 進弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【提出理由】

当社とヤマハ株式会社（以下、「原告」という。）との間の訴訟について、今般和解が成立しましたので、金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第6号の規定に基づき、本臨時報告書を提出するものであります。

2【報告内容】

(1) 訴訟の提起があった年月日

平成22年4月14日（訴状送達日：平成22年4月23日）

(2) 訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名

名称：ヤマハ株式会社
住所：静岡県浜松市中区中沢町10番1号
代表者の氏名：代表取締役社長 中田 卓也

(3) 訴訟の内容及び損害賠償請求金額

訴訟の内容：

当該訴訟は、当社が製造・販売するサウンドL S I製品及びマルチ機能L S I製品が原告の保有する5件の特許を侵害するとして、当該製品の製造等差止と損害賠償を求める旨の訴訟が提起されたものです。本件は、第1訴訟（3件の特許侵害）と第2訴訟（2件の特許侵害）にて審理され、第1訴訟については、平成24年8月31日付けで東京地方裁判所より原告の請求を棄却する判決が言い渡された後、原告が判決内容を不服として知的財産高等裁判所に控訴しております。また、第2訴訟については、平成25年9月12日付にて、請求の趣旨拡張の申し立てがなされ損害賠償請求金額が3億円より22億998万円に変更がなされております。

損害賠償請求金額

第1訴訟：

金2億5,000万円、及びこれに対する訴状送達の日から支払い済みまで年5分の割合による金員の支払い。

第2訴訟：

金22億0,998万円、及びこれに対する、そのうち金3億円について訴状送達の日から支払い済みまで、そのうち金19億0,998万円について、平成25年9月14日から支払い済みまで、いずれも年5分の割合による金員の支払い。

(4) 訴訟の解決があった年月日

平成26年1月8日

(5) 訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

当社は原告の主張する特許侵害の事実はないものとして、当社の正当性を主張、立証してまいりました。この度、裁判所での協議内容及び訴訟の長期化による影響などを慎重に検討した結果、知的財産高等裁判所に係属する第1訴訟において、第2訴訟の取り下げを含め、平成26年1月8日付での裁判上の和解に合意いたしました。

以上により、当該訴訟対象の特許権の使用に関し、解決金400百万円の支払いを含め円満に裁判上の和解が成立し、当該訴訟に関するすべての係争が終了いたしました。

(6) その他

本和解の成立に伴い平成26年3月期において解決金400百万円を特別損失として計上する予定です。

以上